

---

# 食べ放題・辞書・ピン芸人

IME

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

食べ放題・辞書・ピン芸人

### 【Nコード】

N7514J

### 【作者名】

IME

### 【あらすじ】

主人公と友達が焼肉屋の食べ放題に行く話です

ピン芸人・辞書・食べ放題

俺はいつもの調子で辞書を片手に舞台へと向かった。

特徴的なTシャツにいつも通りの短パンをはいて舞台の袖からスポットライトの当たる正面へ。

「どうもー。高次です」

いつもこの時が一番緊張する。

ネタをはじめさえすれば、俺は心の無いピエロになって道化を演じられる。

勿論、自己紹介なんて大の苦手だ。

「今日も大盛況だったな。高次」

俺は同じ芸人仲間と食べ放題の焼肉屋に来ていた。

芸人仲間といってもピン芸人二人の集まりだ。

意外と知られていないがコンビ芸人とピン芸人は仲が悪い。

きつとピンとコンビじゃ芸人としての価値観が違うのだろう。

「そうだな」

俺は無愛想に返した。

ピンのやつは意外と喋らない。

それに一発屋が多いから友情関係も浅い。

これは俺の適当な持論だ。

だが、こいつはきさくでよく話しかけていた。

そこに突如女が一人でやってきた。

そいつは食い放題を頼むと猛然と食べ始めた。

泣きながらご飯と肉を食べている女は昔売っていたコンビの芸人だった。

最近は見かけていないが大分太っていた。

面識はないので俺は無視をしていた。

そうしていると前に座っている一歩が話し始めた。

「お前は俺が昔、コンビ組んでいたのって知っているか」

「いや。初耳だ」

「そうか、隣に女がいるだろ。あのデブのやつ。あれ実は俺の元相手だったんだ。昔良くテレビに出ていただろ。コンビで売れたんだが結局、俺は捨てられたんだ。だからピンでまたこの世界に飛び込んだ。今、あいつはテレビには出れないで借金生活。ざまあみろ」  
上辺だけの生活は裏切りがないから楽だ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7514j/>

---

食べ放題・辞書・ピン芸人

2011年10月6日18時02分発行